

日本薬剤師会「後発医薬品の使用状況調査（中間報告）」

2008/11/19

35%の薬局が後発医薬品使用に消極的

日本薬剤師会が11月19日の中医協総会に提出した「後発医薬品の使用状況調査」（中間報告）によると、83.6%の薬局が後発医薬品調剤体制加算を算定している一方で、34.7%が後発医薬品使用には消極的であることが分かった。

調査時期は2008年9月～10月で2000薬局を対象に実施、450薬局から回答を得た（回収率22.5%）。調査結果によると、後発医薬品使用に関する考え方について、34.7%が「後発医薬品の説明・調剤にはあまり積極的には取り組んでいない」と回答。理由については「近隣の医療機関が後発医薬品の使用に消極的なため」が41.7%で最も多く、次いで「品質に疑問がある」37.8%、「効果に疑問がある」34.0%と続いた。2008年9月1カ月間の取扱い処方せん状況については、全処方せん55万3268枚のうち、「変更不可」欄に署名等がなかった処方せんは59.8%の33万600枚だったが、うち1品目でも先発医薬品を後発医薬品に変更した処方せんは1万8668枚で全体の3.4%に過ぎなかった。

後発医薬品の使用に関する考え

	薬局数	割合
特にこだわりはない	94	20.9%
後発医薬品を積極的に患者に説明して、調剤するように取り組んでいる	56	12.4%
薬効によっては後発医薬品を患者に説明して、調剤するように取り組んでいる	140	31.1%
後発医薬品の説明・調剤にはあまり積極的には取り組んでいない	156	34.7%
無回答	4	0.9%
合計	450	100.0%

→ 後発医薬品の説明・調剤にはあまり積極的には取り組んでいない理由（複数回答）

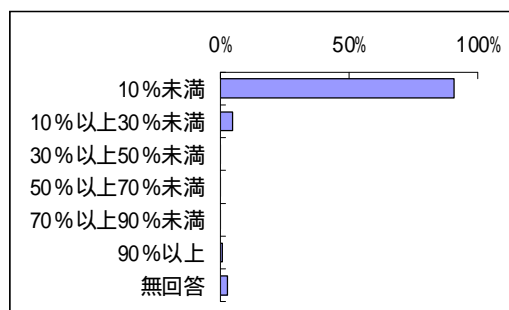
	薬局数	割合
近隣の医療機関が後発医薬品の使用に消極的なため	65	41.7%
後発医薬品の品質に疑問があるため	59	37.8%
後発医薬品の効果に疑問があるため	53	34.0%
後発医薬品の安定供給体制が不備であるため	52	33.3%
後発医薬品の情報提供が不備であるため	44	28.2%
後発医薬品の副作用に不安があるため	39	25.0%
薬局にとって経済的な便益がないため	32	20.5%
後発医薬品に関する患者への普及啓発が不足なため	23	14.7%
その他	28	17.9%
無回答	1	0.6%
薬局数	156	100.0%

患者が後発医薬品の使用を希望しなかった理由については、「薬剤料等（患者自己負担額）の差額が小さい」が39.6%で最も多く、次いで「後発医薬品に対する不安がある」35.6%、「公費負担の患者であるため、経済的インセンティブがない」6.9%などとなっていた。

一方で、2008年4月以降に後発医薬品に変更した患者で、2回目以降、後発医薬品を希望しなかった患者割合については、90.7%の薬局が「10%未満」と回答しており、一度後発医薬品に変更すると、その後はほとんど変更がないことが分かった。

08年4月以降に後発医薬品への変更調剤を行った患者のうち、2回目以降に後発医薬品の使用を希望しなかった患者の割合別にみた薬局数の分布

	薬局数	分布状況
10%未満	408	90.7%
10%以上30%未満	22	4.9%
30%以上50%未満	1	0.2%
50%以上70%未満	1	0.2%
70%以上90%未満	1	0.2%
90%以上	5	1.1%
無回答	12	2.7%
合計	450	100.0%



なお、調査結果については、厚生労働省ホームページに掲載されている。

(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/11/dl/s1119-6d.pdf>)